



学校だより

横浜市立洋光台第一小学校

www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yokodai1/

平成28年度



違いをお祝いして楽しもう

校長 青木 圭介

8月も残り少なくなりました。日中はまだまだ暑さが厳しいですが、夜になると秋の虫の声が聞こえてきます。学校には、子どもたちの元気な声が戻ってきました。夏休み中のさまざまな経験を活かして、前期後半も元気に楽しく学校生活を送ってほしいと思います。

さて、この夏はオリンピックが開催され、日本をはじめとする世界のトップアスリートの活躍が連日話題になりました。それぞれの競技にさまざまな感動の場面があり、テレビを見ながら手に汗を握ったり、試合後の選手の涙に、見ている方まで目頭が熱くなったりした方もいらしたのではないのでしょうか。

6日の開会式は、私もテレビ中継で視聴しました。ギリシャから始まり、開催国ブラジルまで続く入場の様子を見ながら、世界にはたくさんの国々や地域があることを改めて実感しました。「アンティグア・バーブーダ」「コモロ」「ブルキナファソ」「ジョージア」など、私にとってはあまり馴染みのない名もあり、ネットで国の位置を検索しながら視聴しました。大選手団を擁しての入場もあれば、選手がたった一人というところもありました。国旗や地域の旗もさまざま、お国柄を表したユニフォームも色とりどり、踊りながらであったり、整然と行進していたり、入場の仕方もいろいろです。内戦や政情不安で他国に逃れた難民による選手団にも目をひかれました。さまざまな国や地域の多様な人々が、その違いを認め、差別を伴うことなく、スポーツを通じて、友情、連帯、フェアプレーの精神をもって相互に理解しあうオリンピックの意義を感じました。開会式の中の言葉として紹介された「違いをお祝いして楽しもう (Celebrate Difference)」が心に残りました。

オリンピックと言えば、古代ギリシャが発祥の地ですが、東京国立博物館で開催されている特別展「古代ギリシャー時空を超えた旅―」を見学する機会を得ました。古代オリンピックは、紀元前8世紀にオリンピアで始まり、徒競走のみから、5種競技やボクシング、戦車競争などさまざまな種目が増え、ギリシャ全土から選手が集う大きな競技会に発展したようすや大きな名誉を得た優勝者の銅像などが展示されていました。神に捧げる古代オリンピックの開催期間は、ポリス(都市国家)の間の戦争をやめたという話は有名です。世界の多様な人々の違いを認め、世界の平和を目的とする現代のオリンピックの精神に通じるものが感じられます。



対極として、違いに対する不寛容さが顕著に出た事件として、7月26日のやまゆり園での惨劇は忘れられません。障害のある方々への犯人の身勝手な発言に強い憤りを感じます。「先天性異常というのはいくつもあり、そのうち顕在化したものが病気とされる。障害者と健常者がまったく違う存在というわけではない。誰も自分の中に弱い部分がある。その自覚があるなら、障害がある人への視線は優しいものになるはずなのに。」朝日新聞(8/9朝刊)に掲載された内海智子さん(障害者支援NPO理事長)の言葉を胸に刻んでいます。

学校では、一人ひとりがお互いの違いを認め、だれに対しても思いやりをもって行動できる子を育てる人権教育、一人ひとりの支援ニーズを捉えて適切に応える支援教育をすすめています。だれもが、安心して、豊かに生活できる学校づくりをめざし、これらの取り組みをさらに進めていきたいと、強く感じる夏の出来事でした。